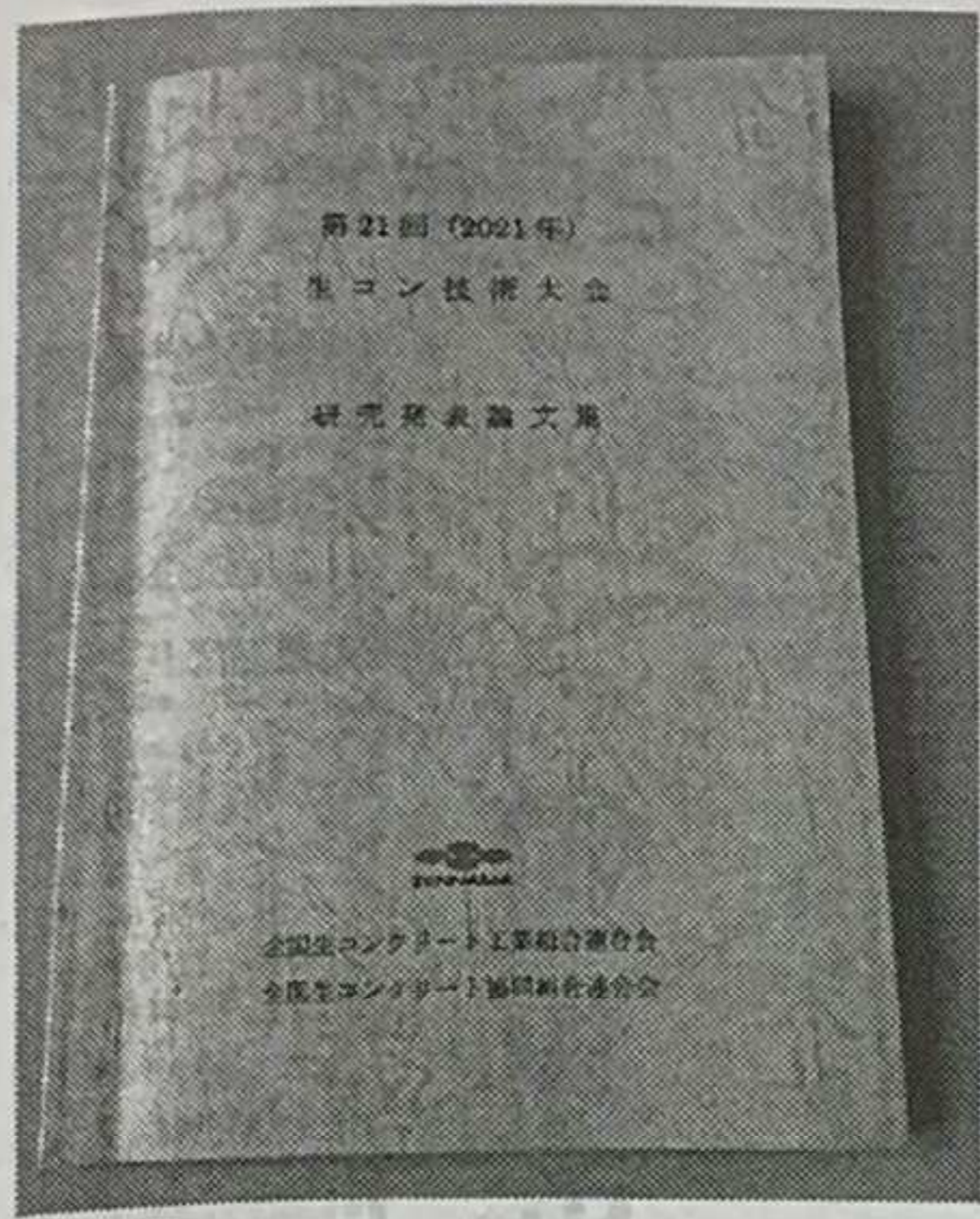


論文集 フローコンへ対応着々 特定課題で8論文収録

4月14～15日に開催予定だった第21回生コン技術大会は中止となったが、中止の決定以前に論本が投稿されていたことから、全生連は例年通り『第21回(2020年)生コン技術大会研究発表論文集』を発売した。現在、全生連ホームページ



4月14～15日に開催予定だった第21回生コン技術大会は中止となったが、中止の決定以前に論本が投稿されていたことから、全生連は例年通り『第21回(2020年)生コン技術大会研究発表論文集』を発売した。現在、全生連ホームページ

『第21回(2020年)生コン技術大会研究発表論文集』を発売した。現在、全生連ホームページ

暑い日は供試体持ち帰り？

愛媛工組など「運搬装置」も考案

および生産性向上に貢献したい」としている。生コン業界ではフロー管理の普通コンクリート

ユニークな研究として「戻りコンクリート」から製造した乾燥スラッシュ微粉末を用いたプレキャストコンクリートの構造体強度補正値の検討(研2、三和石産の大川憲氏ら)、「共同納入のための混用生コンに関する基礎研究(研3、広島県東部生コンクリート協同組合技術委員会の河野秀和氏ら)、「猛暑日に現場採取した供試体の即時持ち帰りに関する研究(研究14、愛媛県生コンクリート工業組合南予技術セン

さらに同研究では、運搬による強度低下などの影響を低減するため、「振動低減装置」を試作している。ジェル素材の振動低減パッドを利用した運搬用の装置で、複数の供試体を収納でき、同装置を使用することで、運搬による強度低下を低減することも確認した。まとめでは、さらに改良した低減装置を使用することで、「運搬による供試体強度への影響を最小限に抑えること

共同納入に関する研究では、複数の生コン工場から同一工区に生コンを出荷する状況を想定し、強度が異なるコンクリートを納入した場合や、色の違いが発生した場合の影響などについて検討している。猛暑日の供試体持ち帰り合理的といえる。